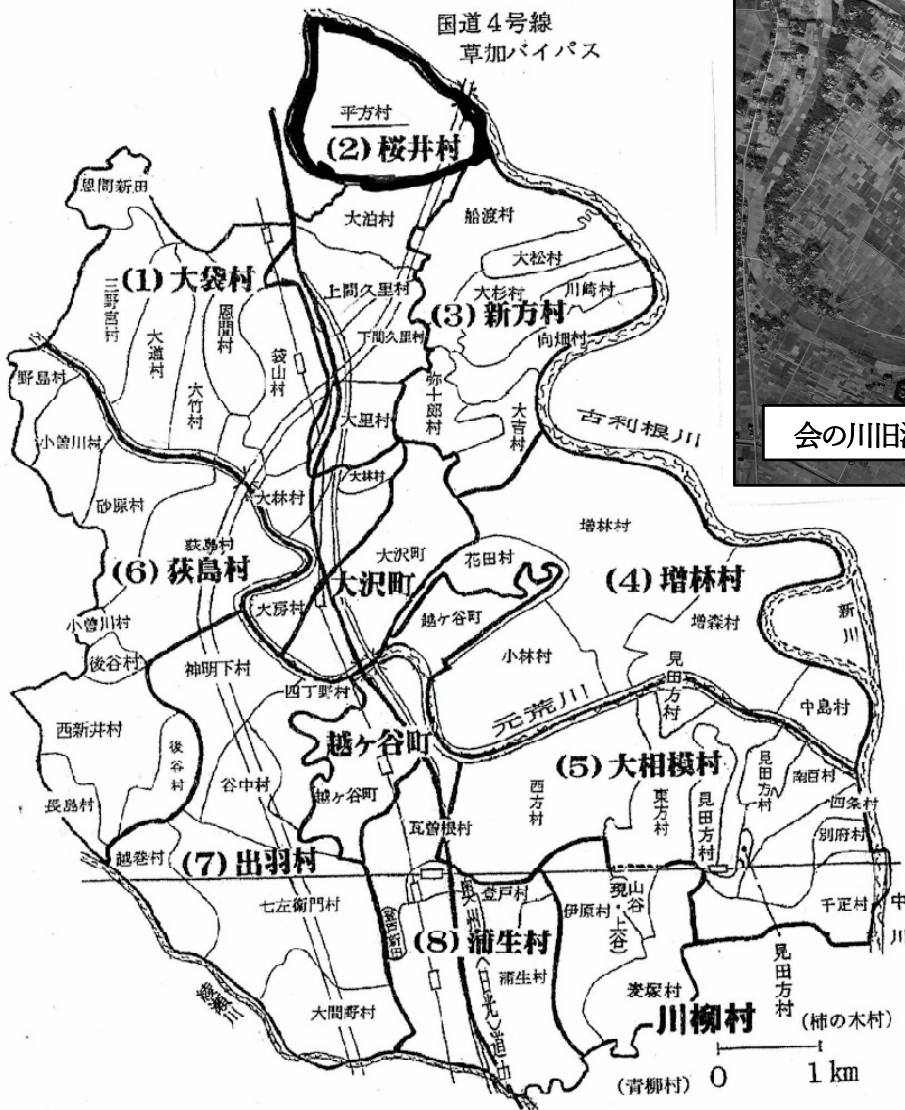


明治22年の町村合併後の越谷市域



小さな文字の町村名は江戸時代にあった二町四十九ヶ村



出典：国土地理院「空中写真閲覧サービス」  
USA\_R536-No2\_29  
撮影：1949年1月21日より 部分引用

出典：加藤 幸一氏作成の図より 加筆して引用

一・越谷市の最北部「平方村」について

大野悦治

・越谷市の最北にある「平方村」は、利根川が中川低地を乱流していた頃、利根川本流「現大落古利根川」や分流（会の川）の度重なる洪水によって形成された比較的平らな微高地から「平方」と名付けられたようである。  
・その形はちょうど地図のうえからは、三角形の形になっている。

江戸時代までに平方村には七つの小名（横手、南、東、沖ノ前、砂間・戸崎、山谷）ができた。

（注）小名は、集落名等で、現行の大字・町名等に相当

江戸期から明治期に字地として会の川、やたれ、南代、沼田、横手前、東前、会の久保・戸崎前、川久保、山谷前、立野、東田。南田、谷原、大枝、大畑の十六あった。うち飛地の谷原、大枝、大畑はその後春日部へ編入となった。

（注）字地として『武蔵国郡村誌』に記載された地名、現行の小字等に相当。

桜井村は、明治二十二年（一八八九）、平方、大泊、上間久里、下間久里、大里の五ヶ村が合併してできた。

桜井村の名称は、昔この地域が下河辺庄桜井郷と呼ばれた時があったからといわれる。徳川氏の入国当初、何れも「御料」（天領）と称され、幕府の直轄領二町二〇ヶ村で平方村もその一つであった。

### ●戸口等の推移

・戸口（文政）一八五戸（天保）一八六戸

・（明治八年）戸数 二〇四戸 人口 一〇五二人

・（令和五年一月一日現在）

戸数 三八二五戸 人口 八五八三人

### ●近世の畑が占める割合

・村別では、袋山一〇〇%、中島九五%、増森八六%に次いで七九%と多い。

●農作物では、畑作物として栽培された、（明治八年）そば（830石）、菜種（三〇石）、は越谷町村内でトップのほか、大豆（四三〇石）、麦（一三三五石）は、大沢町に ついで二番目に高い生産量であった。

●平方地域は、粘土質の畑であったため、煉瓦造りによいとされ、明治期から大正期にかけて表土が掘り出され、かなりの水田が増えたといわれる。

●林西寺周辺では、硝石が採掘されたとの記録がある。

●現存する寺・神社

- ① 林西寺、
- ② 鹿島神社、
- ③ 香取神社、
- ④ 戸崎稻荷神社、
- ⑤ 山谷香取神社、
- ⑥ 女帝（体）神社、
- ⑦ 浅間神社

●虚空蔵菩薩の版木の発見（表・参照）  
こくうぞう はんぎ

平成二十一年（二〇〇九）一〇月、上沖自治会の集会所（江戸時代は崇源寺<sup>すうげん</sup>。現在は廃寺）でクスノキの古い版木が発見（発見者・河原常美氏）され、依頼を受けた加藤幸一氏（越谷市郷土研究会・顧問）によると、（宝暦九年（一七五九）に、地区の人たちの虚空蔵さまの集まりが、二五〇年前にあったということをものがたり、周辺一帯に虚空蔵菩薩信仰があったことをうかがわせるものであると分析している。（現物は林西寺に保管）。

・虚空蔵菩薩を本尊とする越谷市内の寺院は「東福寺」のみである。

・蒲生愛宕町第二会館に「虚空蔵菩薩像」が安置されている（非公開）

●文化財（越谷市指定）

- ・林西寺
- ・①代々の朱印状
- ・②吞龍上人供養塔<sup>どんりゅうしやうにん</sup>
- ・森家のイチヨウ（個人蔵）

●越谷市・緑のオアシス指定

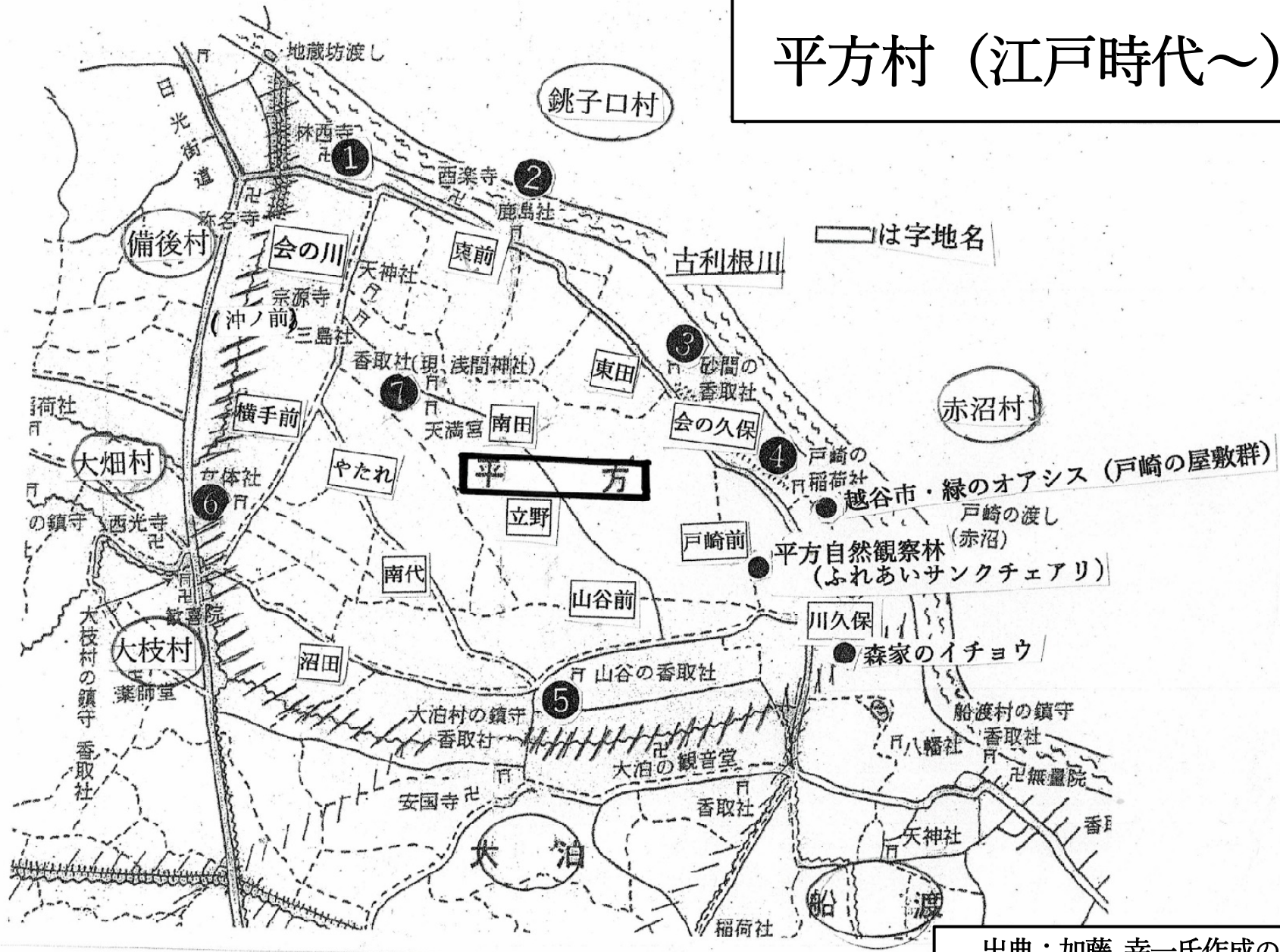
（古利根川沿いの戸崎の屋敷群）（令和四年九月）

●平方自然観察林（ふれあいサンクチュアリ）の指定（平成二四年度）。

（参考資料）

- （一九七五）『越谷市史一』、（一九七七）『越谷市史二』、（一九七二）『越谷市史四』
- （一八三〇）『新編武蔵風土記稿』
- （一八八二）『武蔵国郡村誌』 ほか

# 平方村 (江戸時代～)



越谷市・緑のオアシス (戸崎の屋敷群)  
 戸崎の渡し (赤沼)  
 平方自然観察林 (ふれあいサンクチュアリ)

出典：加藤 幸一氏作成の図より 加筆して部分引用



「虚空蔵(こくうぞう)菩薩の版木 (裏面)」  
掲載の許諾済み



「虚空蔵(こくうぞう)菩薩の版木 (表面)」  
掲載の許諾済み